

17 究極的分析思考の世界 (アビダルマ) 宇宙とは? 生類とは? 真理とは? 【全2回】/開催方法: 現地

みともけんよう
三友健容

立正大学名誉教授
高応寺院首



受講料 会員料金: ¥5,000 早割価格: ¥4,000 (納入期限: 11月8日)

【日程・時間】【全2回】 11月15日(火) 13:30~15:00・15:20~16:50

■受講に必要なもの

[テキスト] レジュメ配布

釈尊によって説かれた教え(法)とより良き生活慣習規範(律)が第一結集で合意承認を得ると、弟子たちはその教えを体して修行し悟りを開いていった。しかし、やがて教えの細かな意味について明解な応えを示してくれる長老たちが少なくなり、正しい意味を解説伝持しておく必要が生じた。これが、三蔵(経・律・論)のひとつであるアビダルマ(教えに対する注釈、論蔵)の編纂である。

のちの大乗仏教では、このアビダルマの詳細な分別智を否定した無分別智を究極の到達点としたが、このアビダルマは、まさに長老たちの叡智の結晶であり、詳細に吟味分析思考(分別)することによって曖昧さを排除し、究極的な智慧をもって悟りへの法を詳細に解説している。生死輪廻の迷いの世界から脱却して悟りに到達するにはどうしたらよいのかという方法が明快に述べられている。その説明範囲は大宇宙の生成から極小の極微(原子)にまで至り、そこに生息する生き物(有情)たちが出現したころの初めから、やがてはやってくる、この世の壊滅などが説かれているので、まずここから講義に入る。

つぎに、あらゆる存在は偶然生じたり、全知全能なる絶対神が作ったりするのではなく、生じた結果にはかならず原因があると考え、六因・四縁・五果をもって究明し、われわれの何気ない動きも、つぎの結果を生んでいくという教理を探究する。

われわれは、業因によって業果を生む。決して偶然ではない。そこには個別的な業だけではなく、おなじ時代、おなじ地域の人たちの営みが業果を生んでいく共同責任(共業)があり、自分だけは別であることはない。まさに「因果の道理、歴然として私なし」の世界である。

その業因は、煩悩に汚染された心から生じている。そこで煩悩とはなにかについて分析的思考が行き着いたところを解説する。

すべての苦しみ迷いはこの煩悩によって引き起こされる。アビダルマは、この煩悩を詳細に究明し、その断じ方を教えてくれる。のちの大乗仏教から、己れひとりの解脱救済しか説かないと批判されるが、「人間は考える葦である」(パスカル)。悟りへの道程上の不確かな解答はなく、まさに究極的分析思考がたどり着いた、悟りの世界を概説し、仏教の根本思想「戒定慧の三学」に立脚した世界を追体験できれば幸いである。

【参考書】

- ①『存在の分析 アビダルマ』 著者: 櫻部健 出版社: 角川ソフィア文庫
- ②『俱舎概説』 著者: 河村孝照 出版社: 山喜房佛書林
- ③『天台四教儀談義』 著者: 三友健容 出版社: 大法輪閣
- ④『アビダルマディーパの研究』 著者: 三友健容 出版社: 平楽寺書店